

学番	4 3	県立三条東高等学校
----	-----	-----------

令和 7 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	<p><教育目標> 誠実で自立して在る若人の育成</p> <p><スクール・ミッション> 【探究学習をととして、多様な人々と協働し地域や社会に貢献する人材を育成する学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学究型の伝統校として、確かな学力を定着させ、自他の心と生命を尊重する精神、持続的に努力する気力・体力、課題解決能力を向上させる力を育成する。 ・探究的な学びや活動をととして、身に付けた知識・技能、思考力・判断力・表現力を生かし、多様な人々と協働し地域や社会に貢献する人材を育成する。 ・学校設定教科「医療専攻」の学びをととして、将来、地域医療を担う人材の育成に貢献する。 <p><校長の学校経営ビジョン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッションの実現に向け、スクール・ポリシーを起点とした教育活動の改善を図る。 ・社会の変化に主体的に向き合い、他者と協働し対応できる「新しい時代に求められる力」を育成するため、探究的な学びの一層の充実と地元企業や大学等関係諸機関との連携強化を図る。 ・社会と繋がる力の育成、学びを深める力の育成、進路に繋げる力の育成により、3年間の成長のストーリーを描く。 ・効率的・効果的で円滑な校務を推進し、働き方改革と職員のワーク・ライフ・バランスを促進する。 	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> ① 情報を集め、選択し、理解して、課題を見つける力を育成します。 ② 情報や知識を深め、広げて、課題を考察していく力を育成します。 ③ 情報を発信し、社会や地域とつながり、協働する力を育成します。 ④ 前向きにものごとを捉え、諦めず、努力を続ける力を育成します。 	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> ① 課題発見に必要な情報収集のために様々な媒体を活用する授業を行います。 ② 実物に触れる等、実体験をととして知識を深められる教育活動を行います。 ③ 集団において意見の発表や議論を繰り返し、相互評価する授業を行います。 ④ 社会や地域と協働等をととして、課題解決に挑戦する教育活動を行います。 ⑤ 集団活動を通じて多様な仲間と協力し、社会性を育成する取組を行います。 	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的好奇心があり、失敗を恐れず、粘り強く挑戦しようとする生徒 ② 物事に熱心に取り組んだ経験があり、入学後もそれを活かせる生徒 ③ ふるさとを誇りに思い、自ら行動し、さらなる活性化を目指す生徒 ④ 向上心があり、まわりに自分の意見を積極的に伝えようとする生徒 ⑤ 社会性があり、まわりの意見を尊重し、課題解決しようとする生徒 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>医療専攻8期生が卒業し、看護・医療系大学等への進学率が前年を上回るなど成果を上げた。医療専攻のプログラムに更なる充実と探究活動の充実を加え、引き続きキャリア形成の醸成と、これらを主体的に進路選択に活かす力を身に付けさせるよう授業改善を図りたい。</p> <p>大学短大進学希望者の進路実現についても、難関国立大学合格者が出るなど例年以上の成果がみられた。引き続き、3年間を見通した継続的で組織的指導となるよう努める。</p>	<p>円滑な校務運営と教育課程の実施に努めるとともに同窓会と連携し、探究活動を充実させる。</p> <p>I C T等の利活用を更に推進し、確かな学力の定着を図り、進路希望を達成させる。</p>	<p>円滑な校務運営と教育課程の実施による授業時数確保とI C T等を利活用した確かな学力の定着を図る。</p>
	<p>基本的な生活習慣の確立を促し、規範意識の涵養に努める。また、交通安全指導を徹底する。</p>	<p>継続的で組織的な進路指導体制を確立し、探究活動等を通じて、生徒の多様な進路希望達成を支援する。</p>
	<p>部活動と学校行事の活性化を促して生徒同士の関係構築能力を高め、安心・安全で心身ともに健康な学校生活の実現を図る。</p>	<p>基本的な生活習慣確立を促す指導を徹底する。</p> <p>生徒の自主的・自律的な生活態度の確立を促し、規範意識の涵養に努める。</p>
	<p>部活動と学校行事の活性化を促し、自主的・意欲的に行動しようとする態度の育成に努める。</p>	<p>保健指導と教育相談体制を充実させ、生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるよう支援する。</p>

<p>同窓会の支援により地元企業や行政等との連携が強化され、地域探究、社会探究など探究的な学びの充実を図ることができた。引き続き外部との連携協働による教育活動に取り組む。</p> <p>いじめ事案への組織的対応、早期発見・早期対応を徹底し、日常的な生徒との面談や職員間での情報共有に努めている。引き続き体制を維持するとともに、一人一人の生徒を尊重し対応する。</p> <p>教員の時間外勤務時間の縮減に対する意識は徐々に高まっている。更なる縮減を図り、ワーク・ライフ・バランスが保たれるよう働き掛ける。</p>	<p>P T A活動のさらなる活性化を図り、生徒の学びの環境の充実を図る。また、生徒の利用しやすい図書環境作りに努める。</p>	<p>P T A行事等の企画運営やP T Aだより等の発行により保護者等への情報提供、保護者等との連携を深め、P T A活動の活性化を図る。</p>
		<p>図書館の資料整備・充実を進め、利用しやすい環境作りに努める。</p>
	<p>業務内容の精選を行い、業務の平準化を図ることで、教員の時間外勤務時間を縮減する。</p>	<p>募集学級の減少に伴い、職員定数が減少することから、校務分掌編成や業務内容の見直しが必要となる。部活動においても部員数や活動状況による部活動数の精選が必要である。業務分担の適正配置により時間外勤務時間月 80 時間、年間 720 時間超を出さない。</p>

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
円滑な教育課程の実施	円滑な校務運営と教育課程の実施によって授業時数の確保と確かな学力の定着を図る指導に努める。	他分掌・各学年との連携を深め、円滑な校務運営に努める。	A	A	A
		生徒・教職員の負担軽減を図りつつ、授業時数の確保に努める。	A		
		授業変更等により、生徒の学習時間の確保を図る。	A	A	
		チャイム前の授業準備や、迅速な教室移動を生徒に指導する。	A		
		必要な課題を適切に指示し、生徒の主体的な学習習慣の確立を促す。	A		
		ホームページ等を活用して、保護者等や地域への情報発信に努める。	A		
生徒の進路希望達成	継続的で組織的なキャリア支援体制を確立する。	キャリア指導部と学年が連携し、将来を見通したキャリア指導計画を作成する。	A	A	A
		「進路のしおり」を作成し、各学年段階で必要な指導を継続的に行う。	A		
	生徒の多様な進路希望実現を支援する。	生徒の進路希望実現に効果的な模試や教材の活用を検討・実践する。	B	B	
		講演会等を計画的に実施し、早期からキャリア意識を高める。	A		
指導の徹底と規範意識の涵養	交通安全指導を徹底する。	交通講話やバイク実技講習会、全校集会を通じて交通安全指導を徹底する。	A	A	A
		街頭指導及び駐輪指導を実施し、交通事故防止を図る。	A		
	基本的生活習慣の確立を促し、自立的な生活態度と規範意識の涵養を図る	薬物乱用防止講話や、インターネットを含む携帯電話に関する講話を実施する。	A	A	
		頭髪・服装検査を学期始めに実施し、全職員で指導の徹底を図る。	A		
		朝の声かけを継続的に実施し、服装や遅刻防止、挨拶の励行等を指導する。	A		
		規律委員会でポスターを制作するなど、生徒が互いに注意できる環境を作る。	A		
		定期的に学校生活調査を実施し、いじめ等の現状把握と防止教育に取り組む。	A		
部活動と学校行事の活性化	部活動と行事の活性化を促し、自主的・意欲的に行動する態度の育成に努める。	行事への積極的参加を促し、自主的・意欲的に行動し、実践する態度を育成する。	A	A	
		部活動紹介等を通じて、全校生徒に部活動への積極的参加を促す。	A		
		部活動を通じて、さらなる学校生活の活性化を図る。	A		
心身ともに健康な学校生活の実現	保健指導と教育相談体制を充実させる。安全かつ快適な学校生活環境をつくる。	健康診断を着実に実施し、事後措置についても丁寧に指導する。	A	A	
		生徒の心身の健康について、職員間で情報を共有し協働して関わる。	A		
		防災計画を確実に遂行し、地震・火災等への安全体制を徹底する。	A		
		学校内外（部室・セミナーハウスを含む）の環境整備を行い、美化に努める。	A		

保護者等との連携の推進	P T A活動に対する保護者等の参加を促し保護者等と学校との連携を深め、P T A活動の一層の活性化を図る。	P T A理事との連携を深め、諸事業への積極的な参加を図る。	A	A	A	
		P T A広報誌「かけはし」を年2回発行し、学校やP T A諸活動を広く紹介する。	A			
		大学等のオープンキャンパスへの参加報告を実施し、保護者等の進路に関する意識の啓発・向上を図る。	A			
		理事会等の実施をとおして、保護者等との連携に努める。	A			
資料の整備と利用の促進	利用しやすい図書館の環境作りに向けて、資料整備や充実に努める。	図書館資料の充実を図り、授業実施の支援と生徒の学習支援に努める。	A	A	A	
		図書委員会の活動がより活発になるよう、指導に努める。	A			
		蔵書整理や館内環境の整備を進め、将来予想される校舎改修に備える。	A			
働き方の見直し	時間外勤務時間月80時間、年間720時間超を出さない。	出退校簿、登庁申請簿などから教員の在校等時間を客観的に把握し、長時間在校等傾向を改善するために、定時退庁日と学校閉庁日を適切に設定する。休暇等が取得しやすいように業務の平準化を図る。	A	B	B	
		本校の部活動に係る活動方針で定めた活動時間や休養日等の遵守に努める。また、部活動や大会運営など複数の顧問で対応することができるよう調整する。	B			
各学年での指導の充実	1学年	【社会と繋がる力の育成】 生徒の自己実現のため、基礎学力の定着と主体的で規律ある生活態度を育成する。	生徒面談を綿密に行い、高い進路目標を持たせ、それに向けて努力させる。	A	A	A
			生徒が新しい環境に円滑に適応できるよう、家庭と連携し支援する。	A		
			予習復習など家庭学習習慣の定着を目指し、基礎学力を向上させる。	A		
			自律した高校生になれるよう、学業と課外活動の両立に留意させる。	A		
	2学年	【学びを深める力の育成】 進路希望の実現に向け、更なる学力の定着と、前向きで意欲的な生活態度を育成する。	生徒面談を定期的に行い、家庭との連携を密にして、生徒が主体的・協働的に高校生活を送ることができるよう努める。	B	B	B
			模試の有効活用と朝学習の充実により、学習習慣の確立と学力の伸長を図る。	B		
			学業と課外活動のバランスが取れた、中堅学年に相応しい自覚ある行動を促す。	B		
			継続的な情報提供や進路ガイダンス、個別面談により、生徒が進路等について主体的に考えるよう促す。	B		
	3学年	【進路に繋げる力の育成】 自己実現のため人間力を養成し、学力伸長と進路希望達成を支援する。	生徒と面談を繰り返し、家庭との連携を密にして、生徒が主体的・協働的に学校生活を送れるよう支援する。	A	A	A
			学習支援クラウドサービスや模試の有効活用と進路希望別講習の充実により、確実な学力伸長を図る。	A		
			継続的な情報提供や面接指導を行うことで、主体的な進路決定を促す。	A		
			進路ガイダンスと個別指導により、生徒の進路目標達成のための支援を行う。	A		
成果	<p>国公立大学への進学者は前年度並みであったが、大学短大全体の進学率は前年度の64.9%から68.4%に上昇した。総合型選抜、学校推薦型選抜の利用が増加傾向であり、3年間を見据えた組織的な進路指導が必須である。医療専攻では、高大連携締結の新潟薬科大学からの探究活動への支援により学びの充実が図られ、成果を上げた。地域探究、社会探究において、同窓会の支援による地元企業や行政等との連携が定着した。今後も関係機関との連携を深め、医療専攻と探究活動を軸にした特色ある学校づくりを進めていく。</p>			総合評価		
			A			

学番	43	県立三条東高等学校
----	----	-----------

令和7年度

学校関係者評価（報告）

学校関係者からの評価・意見等※

【保護者等、「学校評議委員会」及び「地域の声を聞く会」等の意見より】

○授業について

- ・授業見学では授業スタイルも様々でICT化が進んでいる。タブレットなど新しいものを取り入れていたり、インバウンドについて話し合ったりするなど一方通行ではなく、双方向のアウトプットの活動はとてもよいと思った。
- ・朝学習について、各学年度のような目的で実施しているのか。
- 1、2学年は各教科から問題の出題や読書など学習習慣を付けることが狙いで行っている。3学年は習慣づけもそうだが、1限の授業に落ち着いて入ることができるようにするためもある。
- ・朝学習は先生が用意したものをやる形なのか。
- 3学年は、週2回Classiやニュースを読ませる活動を取り入れており、個々によってテーマが異なる。
- ・進路指導について、昨年度東北大学2名など頑張っているという印象があるが、ベネッセ等活用効果が大いなのか。
- 入試問題の傾向や分析で大きく活用している。

○部活動について

- ・今年度の部活動の活動状況、活躍を教えてもらいたい。
- 少林寺拳法部がインターハイに、水泳が北信越大会に出場した。その他の部も日々上位大会出場へ向けて頑張っている。
- ・文化部はどうか。
- 吹奏楽部が県大会で金賞を受賞した。文化祭で発表や作品展示などを行った。
- ・加入率はどのくらいか。
- 生徒会執行部の活動を含め、7割5分くらいの生徒が加入している。
- ・子どもは部活動が楽しくて学校に来ている。人間関係づくりのためにも大切で、部活動のおかげである。

○学校行事について

- ・東高祭（文化祭）が今まで土曜日開催であったが、今年度平日開催になったのはなぜか。
- 時期としては3年生の進路準備の関係で1週間前倒しをした。昨年度大会等に重なり参加できない生徒がいた。結果的に今年度も重なった部はあったが、中学生が見に来たいが来られないという声があった。

○進路指導、探究活動について

- ・進学するに当たって探究的な学習（地域探究）が進学とどのように関係しているのか。どのように活かされているのか。
- 総合型選抜入試では、高校時代の探究活動について問われたり、面接やプレゼンテーションなどコミュニケーション能力を求められたりする。その力は探究活動により地域の大人との関わりの中で育まれるものである。三条市立大学の総合型選抜を受験した生徒は将来鍛冶職人になりたいという夢を持っており、大学でいろいろなことを学んでから職に就きたいと考えている。地域探究が進路実現に効果的に作用した好事例ではないか。

○学校生活、生徒指導について

- ・東高の生徒は服装がしっかりしている。以前は登下校で道に広がって歩いていたりしたが、今はほぼ見られなくなっており、同窓として大変誇らしい。
- ・生徒は挨拶がとてもよく、校内はきれいに清掃、整理されておりよい環境だと思った。
- ・JRの立場から、電車内等で体調不良があった場合はいつでも相談してもらいたい。警察とも連携を行いながら、安心安全に利用してもらえるよう見守りを行いたい。東三条駅から自転車で通学している生徒も多いかと思うが、交通事故に注意してもらいたい。令和7年の1年間で自転車盗難は26件あり、ほとんどが東三条駅周辺で、無施錠の自転車であった。急いでいるときなど特に注意してもらいたい。また二重ロックをお願いしたい。
- ・令和7年度三条警察署管内で自転車と自動車との接触事故（高校生）が2件起きている。原因は一時停止で停まらずに衝突したもの。注意喚起をお願いしたい。

○情報発信について

- ・さくら連絡網が便利で子どもが忘れていたことでもお知らせがあるため助かっている。
- ・三条東高校は頑張っているという印象がある。校長先生のマスコミへのアピールが素晴らしい。取り上げられる回数が増え、大変喜ばしい。

※「自己評価の結果の内容が適切かどうか」

「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方針が適切かどうか。」

「学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。」

「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」などを評価する。

学番	43	県立三条東高等学校
----	----	-----------

令和7年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
円滑な教育課程の実施	<ul style="list-style-type: none"> 三観点評価のあり方について昨年度に整理し、今年度はそれに基づいて進めることができた。 校務支援システムの円滑な運用について、前任者からうまく引き継ぎ、進めることができた。 各定期考査間の授業時数バランスの調整の難しさを痛感した。今年度の反省を次年度計画に反映させ、非常勤講師の多い学校ではあるが曜日変更も組み入れることとした。 教員の働き方改革、価値観の変化や特徴のある生徒への合理的配慮などを踏まえ、指導や業務のあり方を少しずつでも改善していくべきと考える。
生徒の進路希望達成	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望を持つ生徒に対して、ガイダンスや講演会を実施し、必要であると考えられる情報提供や意識啓発を図ることができた。 特編授業や進学講習、模擬試験等をキャリア指導部・学年・教科で連携して実施し、大学進学を希望する生徒への指導を充実させることができた。 共通テストのWEB出願などのデジタル化に対応するためのマニュアルを作成することで、大きな問題なく生徒も職員も業務を進めることができた。 総合型選抜や学校推薦型選抜、就職希望者への個別指導を通じて多くの生徒の進路実現につなげることができた。今後は職員負担の増加等の課題を検討していきたい。
指導の徹底と規範意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の声かけ」については、担任の負担軽減になるよう昨年に引き続き副任で対応した。 登下校時における交通ルールの遵守やマナーの向上を目的に、交通講話を実施するとともに、全校集会においても指導を行った。 「携帯マナー講座」や「薬物乱用防止講演会」を実施し、SNSを通じた人間関係のトラブルの防止や薬物の危険性について指導した。 自転車盗難が駅周辺で多く発生していることから、規律委員でポスターを制作するとともに、警察と連携し、啓発のチラシ配りを駅前で実施した。
部活動と学校行事の活性化	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍以前の形で生徒会行事を行うため、生徒会執行部は全校生徒の意向を集約しながら企画を進めるなどに主体的に取り組んでおり、執行部生徒と連絡を密にしながら指導・支援することができた。 部活動は、中学校での地域移行が進む中でも多くの生徒が加入、意欲的に活動しており、運動部・文化部とも交通費の補助などで大会参加への支援を行っている。 学級減により部活動・生徒会執行部とも人数の減少が予想され、行事などの生徒会活動についてよりよい方法を模索する必要がある。
心身ともに健康な学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> 生徒健康診断の学校保健業務、清掃指導、冷暖房機指導、救急法講習を実施した。 生徒が抱える心身の課題について、教職員・スクールカウンセラー等と連携・協働し、教育相談・支援に努めた。 避難経路の確認を行い、避難訓練を実施し、地震・火災発生時に自らの命を守り、安全に避難できるような体制構築に努めた。 部室棟やセミナーハウスを含め、校舎や自転車置場の整備や美化に努めた。
保護者等との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻等連絡ツールである「さくら連絡網」をとおして日々の連絡や保護者へのお知らせ等を配信した。 担任をはじめ、保健室等から生徒の情報について保護者と連絡を取りながら、丁寧に対応を行っており、今後も継続していく。 P T A活動として、会報「かけはし」発行、大学等へのオープンキャンパス参加報告、秋の街頭指導への参加、東高祭（文化祭）でのパン販売などを活発に行った。 慕光会（同窓会）からは、総合的な探究の時間における地域探究学習に多大な援助をいただいた。今後も連携を維持強化する。

資料の整備と 利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や探究活動を支援するための資料整備を行った。必要な資料がすぐに提供できるよう、さらなる充実を図っていききたい。 ・図書委員会活動では、広報の発行などを指導した。より活発になるよう、指導していききたい。 ・蔵書や館内環境の整備を引き続き行っていく。
働き方の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議における会議資料のペーパーレス化が進み、業務の縮減につながっている。 ・学校閉庁日を年間12日間、夏季休業中に閉庁日を5日間設定し、定時退庁日を毎月1回程度設定している。出退校簿等により働き方を客観的に数値で把握し、今後も日常業務の見直しや精選を一層進める。
1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談をとおして生徒理解を進めるとともに、進路目標を持たせられるよう声かけを行い、その実現に向けて努力できるような支援を行った。 ・新潟大学へのキャンパスツアーや地域探究学習としての校外学習など、多様な学びのフィールドを設定することができた。 ・生徒に関する情報を家庭と共有し、必要な支援ができるよう連携に努めた。 ・家庭学習の習慣化を目指し、基礎学力を向上させるよう週末課題等を課すと共に、自律した高校生になることを目指し、学業と課外活動の両立に留意させた。
2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動のフィールドスタディーや文化祭、修学旅行などの行事を通じて、集団や地域、異なる年齢の方々と関わる機会が数多くあった。その中で、周囲との関係性を意識しながら、自己の在り方を考えて行動する場面を多く経験し、社会性の伸長を図り、成長につながるよう支援した。 ・上級学校合同説明会や進路探究などの学習活動を通じて、自己の将来について考え、大学進学や受験への意識を高め、学習時間の増加や学力の向上につながる場面を設定することができた。 ・課題を抱える生徒については、各担任がスクールカウンセラーや保護者と連携し、円滑に学校生活を送ることができるよう支援した。 ・次年度は、最高学年として自覚ある主体的な行動ができるよう促したい。生徒との面談等を通じて希望進路を明確にし、行うべきことを具体的に実行できるよう支援していく。
3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の進学説明会と、生徒面談や三者面談を通じて、家庭と進路情報を共有し、家庭の理解と協力を得て進路実現に向けた活動を進めることができた。また、落ち着いた学習環境を維持するために、生徒が主体的・協働的に学校生活を送ることができるよう支援することができた。 ・学習支援クラウドサービスや模擬試験の活用を促し、進路希望別講習や補習を充実させることで、確実な学力伸長を図った。特に前年度に「3年0学期」を設定することで、早期から受験勉強に取り組む意識を高め、模試結果の分析や個々の状況に応じた学習指導を行い、基礎学力の定着と応用力の向上に努めた。 ・進路別ガイダンスや入試方式ごとの説明会を実施し、新課程入試に関する最新の情報を継続的に提供することで、生徒が主体的に進路を選択できるよう支援した。また、面接指導や小論文指導など個別指導も強化し、生徒が自らの進路目標を明確にし、その実現に向けて主体的に取り組めるよう支援した。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜の希望者が増加する中、出願指導や推薦書作成の時期が一般選抜指導と重なり、教員数の減少も相まって、効果的・効率的な指導方法の検討が今後の課題として挙げられる。今後は指導の平準化や情報共有の仕組みを整備し、より質の高い進路指導を継続できる体制づくりが必要である。